

2021 CUC Summer Program Online

参加者の声

1. サマープログラムオンラインを通して学んだこと 人間社会学部 淡島 夕媛 ……p.2

2. Summer Program Online を終えて 国際教養学部 新藤 優月 ……p.4

【プログラム概要】

日 程：2021年8月24日～27日(4日間)

実施方法：オンライン

参加校：千葉商科大学、チェンマイ大学(タイ)、全南国立大学校(韓国)、国立台北商業大学(台湾)

参加人数：21名

言語：英語・日本語

♪Program♪			
Tuesday 24	Wednesday 25	Thursday 26	Friday 27
12:45- Open	12:00-13:00 Warm-up Meeting (optional) *enjoy free talk with other participants		
13:00-13:55 Opening Remarks Self-introduction with Q&A	13:00-13:55 World Tour 🇯🇵(1)	13:00-13:55 World Tour 🇯🇵(2)	13:00-13:55 World Tour 🇯🇵(3)
Short Break	Short Break	Short Break	Short Break
14:00-14:55 Get to Know Japan! Japanese Language Lesson, Lecture on Culture	14:00-14:55 Get to Know Japan! Hands-on-Activities "ORIGAMI" Prepare square-shaped papers	14:00-14:55 Get to Know Japan! Japanese Language Lesson, Lecture on Culture	14:00-14:55 Get to Know Japan! Hands-on-Activities "Japanese Traditional Dance" Have little space to practice
Short Break	Short Break	Short Break	Short Break
15:00-15:55 Group Talk 👇	15:00-15:55 Group Talk 👇	15:00-15:55 Group Talk 👇	15:00-15:55 Farewell Party 👇 Group Photo 📷
16:00-16:30 Wrap-up	16:00-16:30 Wrap-up	16:00-16:30 Wrap-up	16:00-16:30 Wrap-up *Answer Online Questionnaire



(撮影：千葉商科大学国際センターオフィス)

「サマープログラムオンラインを通して学んだこと」

人間社会学部 淡島 夕媛

今回のサマープログラムオンラインを通して私は、主に2つのことを学んだ。

1つ目は、海外の大学生は英語をよく話せるということである。文法や語彙を考えたり言い淀んだりすることがあまりなく、またふとした相槌や日常的な会話がとてもスムーズだと感じた。自己紹介やワールドツアーのプレゼンテーションの際、皆原稿を用意してあるというよりも、その場でスライドに沿って考えて説明しているような印象を受けた。翻訳機能を使ってその文章が間違っていないか、ちゃんと伝わるかを確認しながら原稿を用意した私にとって、海外の学生の自然な英語は衝撃的だった。次のスライドに移る時も"Next."と一言入れたり、プレゼンテーションが終わって質問をする時も、相手の発表を褒めてから始めたり、"I have a question."と前置きをしたりしていた。とある韓国の女子学生と話したフリートークの際にも、彼女と私は同じ年のはずなのに、相手はすでに英語で話す力がしっかり身についていると感じた。さらに彼女は日本語もとても流暢で、私ともう1人の台湾の学生の間で通訳をしてくれたほどである。これらの経験や感じたことから考えたのは、私はこれから英語の勉強をしていくべきだということである。それは、これからの日本で英語と無関係に暮らすことは難しいのではないかと感じたからである。また、自分の英語力の低さに危機感を感じたからである。今回参加した学生が語学系の学部の人が多かったことを差し引いても、私の英語力は低いと痛感した。今回のサマープログラムオンラインでも、海外の学生と十分なコミュニケーションが取れなかったと思う。私が少しわからないような表情をすると、相手が日本語で捕捉しながらまた英語を言い直してくれ、そのことが嬉しくもあり悲しくもあった。相手の言うことを一回で聞き取って、スムーズに返答したり意見を述べたりすることができるようになりたいと思った。そのためにも、今後は英語の勉強を少しずつでもしていくべきであると考えた。

2つ目は、参加してくれた海外の学生は、思っていたよりも日本のことを知っているということである。3日目に、日本の季節ごとの行事やサブカルチャーのプレゼンテーションを聞いたが、皆その前にもすでに日本文化の中に好きなものを持っていた。それは「進撃の巨人」「鬼滅の刃」といった漫画やアニメだったり、久石譲などの音楽だったり、日本のゲームセンターに置いてあるようなリズムゲームだったりときさままであった。漫画やアニメに関しては、「四月は君の嘘」を知っている人もいて驚いた。マイナーな作品ではないが、NARUTO やポケモンといった海外でもよく知られている王道の作品と比べると、日本国内で有名なくらいのイメージが強かったからである。また、久石譲に関しては、フリートークでその話題が出た時に海外の学生がすごく共感していた。その時のグループは、私を含め、皆楽器が弾けたり音楽が好きだったりしたので、盛り上がった記憶がある。海外の学生のうち2人はコントラバスやバイオリンが弾けると言っていて、私はとても気分が高揚した。ピアノは弾ける人が多いが、弦楽器は楽器にもレッスンにもお金がかかるので、弾ける人が少ないイメージがあったからである。しかし、それを伝えるには語彙力が足りず、"Wao..."とありきたりな反応で終わってしまった。それから、菅田将暉などの俳優を知っていた時にはとても驚いた。私は、中国や韓国、また台湾などのアジアの歴史にとっても興味があり、春学期にその講義も選択していた。しかし、近年のポップカルチャーに関してはとても疎く、向こうで今何が流行っているのか、どんな俳優や歌手がいるのか、まったく知らない。海外諸国の歴史ではなく、私はそれよりもっと海外の文化や近年の動きに興味を持つ

べきであると感じた。英語だけではなく、言語を学んでいく上でその国の文化を知ることはとても重要であると思う。会話の切り口としても必要な知識だと感じたので、英語を学ぶとともにカルチャーについても触れていこうと考えた。

今回のサマープログラムオンラインを通して、私は主に2つのことを学び、またそれを踏まえてこれからの目標を決めた。1つ目は、英語の勉強をして、今よりもスムーズな会話ができるようになることである。もし来年もこのプログラムがあるなら、ぜひ参加したいと考えているので、その時まで基本的な文法を身につけたり語彙を増やしたりしたい。2つ目は、海外の文化についてもっと触れることである。まずは、アジア諸国の文化について学びたいと考えている。日本へ観光に訪れるのはアジアの人が多くイメージがあるほか、私も海外に行くとしたらアジア内であると思うからである。

こうした目標が立てられたことや、実際に海外の学生と交流をした経験などから、今回のサマープログラムオンラインはとても充実していたと感じる。大学が提供しているオンライン英会話や iSquare を活用して、自分の英語力を高めていきたいと考えた。

「Summer Program Online を終えて」

国際教養学部 新藤 優月

今回のプログラムは自分にとってとても良い経験になり大きな影響を与えてくれた。

まず、このプログラムに参加したいと考えた理由は主に4つある。1つ目は大学に入学して様々なことに挑戦したいと考えていたからである。2つ目は以前から英語が好きで英語が流暢に話せるようになりたいと考えていた。3つ目に最近では他の国の言語にも興味があり2,3年前から独学で韓国語も勉強している。そのため、今回のプログラムに韓国の大学の学生が参加していることを知り、外国の友達を作れるかもしれないと思い参加したいと考えた。最後に4つ目は留学に備えるためである。書いたり読んだりする英語よりも聞いたり話したりする英語が必要だと考えていた。留学が自分にとって有益なものになるように英語で話す経験を積みたいと考え参加を決めた。

プログラムのメンバーに決まってプログラムが始まるまで1,2か月ほどの期間があった。その期間で四回以上の英会話レッスンの参加の課題とプログラム中に発表する自己紹介と自分が住んでいる場所のプレゼンテーションを英語で準備をする必要があった。しかし、他の講義やゼミで忙しかったためやり切れる自信がなかったが、友達も一緒にプログラムに参加していたので気持ちをもち直すことができて、プログラム中も良い緊張感で参加することができた。

次に、このプログラムが自分にとってどのような影響があったかについて述べる。まず、4日間のプログラムで英語に慣れてきて聞き取れるようになった。聞き取れるようになると英語がより面白く感じた。また、ブレイクアウトルームのグループで話すことが多かった。全体の人数もちょうど良いと感じた。日替わりでブレイクアウトルームのメンバーが変わるためみんなと話すことができて楽しかった。最初は自分の英語がしっかり伝わるか不安で恥ずかしい気持ちもあり積極的に話すことができなかったが、同じグループの日本人の学生も海外の学生も自分の英語を理解しようとしてくれていることが伝わって徐々に会話に積極的に参加することができた。さらにこの4日間でスムーズに会話できるようになった気がした。

しかし、このプログラムでより英語を勉強しようと感じさせられたこともあった。そのように感じた理由は、プログラムの中で折り紙を折るカリキュラムがあった。そのカリキュラムで、ブレイクアウトルームでハートの折り方を教えることになった。そこで限られた短い時間で自分の中のボキャブラリーでわかりやすく正確に伝えることが難しいことだと知った。コンピューターのカメラに折り紙を映し単語で伝えながら完成させたが、同じグループの日本人の学生も海外の学生も頷きながら聞いてくれて100%ではないが伝わったことがわかった。その体験から、より英語を勉強し自分の伝えたいことを伝えられるようになりたいと考えるようになった。また、プログラムの中で、英語でプレゼンテーションをする機会が2回あった。そこで質疑応答が一番難しいと感じた。発表だけなら自分で何度も練習して上手にできるようになるかもしれないが質疑応答はどのような質問をされるかわからないので最初は焦る気持ちがあった。しかし、インターナショナルセンターの方もいらっしゃるのでも落ち着いて対応することができた。他の学生の発表でも自分から手を挙げて質問するようになった。自分から英語で質問できるようになるとブレイクアウトルームでも自分が話題を出したり聞いたりできるようになった。そして自分にとって一番影響があったことは、このプログラムで友達ができたことで

ある。プログラムが終了しメンバーとインスタグラムの交換をしてメッセージを送った。今現在でもメッセージをしており、プログラムで話しきれなかったことや日本について英語や日本語、その友達の国の言語で会話している。

次に今回の経験をどのように活かし、何がしたいかについて述べる。まず、このプログラムに参加した理由でもある留学に活かしたいと考えている。留学する前に、希望した留学場所に行くには規定の資格や英語のスキルが必要だと聞いた。そのため、英語のスキルやそのスキルを証明する資格を獲得するために今回のプログラムで学んだ表現や文法を活かしたいと考えた。そして、留学中も今後海外の友達を作るために今回のプログラムでの経験を活かしたいと考えている。今回のプログラムで海外の友達ができたと活かし自分が海外にいるときもその土地で積極的に話し、友達を作りたいと考えた。

このように今回のプログラムは自分にとって非常にいい影響を与えてくれた。今回のプログラムをやり切ったことで自分に自信がつき、より成長したいという向上心が生まれた。自分は英語だけでなく韓国語も勉強しているため韓国の学生に話しかけて友達になることができ非常に良い機会だった。今後もこのようなプログラムがあるのならば参加してみたいと考えている。